

厚生労働科学研究費補助金（エイズ対策政策研究事業）

（分担）研究報告書

ブロック拠点病院のない自治体における中核拠点病院の機能評価と体制整備のための研究

～オール四国の体制の整備～

課題番号：21HB1007

【分担研究5】在宅介護職員の実地研修に関する研究

研究分担者：小野恵子

（愛媛大学医学部附属病院 総合診療サポートセンター・社会福祉士）

研究要旨：四国のようにブロック拠点病院が近辺になく、県内の個々のエイズ拠点病院が十分に機能していない、いわゆる地方の比較的医療過疎である地区に、本研究によって HIV 診療の充実や均てん化が促されていくことが期待されている。令和 5 年度の研究成果として、新型コロナウイルス蔓延の影響もあり 1 回のみの実施となったが、HIV 患者の介護に直接当たってもらうことが差し迫った事情であることを踏まえ、県内の在宅介護職の看護師に 1 日ながら研修会として、当院の HIV 患者の実施研修（外来、病棟）と講義・討議を行った。このような具体的な研修により、HIV 感染症に関する啓蒙とともに HIV 患者の在宅医療の推進にも繋がり、極めて意義深い研究活動と考えている。

研究分担者

高田清式・愛媛大学医学部附属病院・教授
末盛浩一郎・愛媛大学医学部・准教授
井門敬子・南松山病院・薬剤部長
若松綾・愛媛大学医学部附属病院・看護師
中村美保・高知大学医学部附属病院・看護師
武内世生・高知大学医学部・准教授
今滝修・香川大学医学部・講師
尾崎修治・徳島県立中央病院・医療局長

A. 研究目的

ブロック拠点病院が四国にない愛媛県において当院は、エイズ地域中核拠点病院に指定され、累計 220 名以上の患者を治療している。四国地区は近年 HIV・エイズ患者の

増加が著しく、大半の患者が当院に受診している。かつ四国地区は、高齢化率が各県 32.2～35.9%であり、都市に比べ高齢者の HIV・エイズ患者が多く、HIV 感染および合併症が進行し日常生活に差し障りが著しく自宅以外での長期療養が必要な例も少なくない。当院は急性期病院の立場であり、自宅で生活困難な長期療養患者の対応については、他の施設への紹介・受け入れを個々の事例において行っているが HIV に対する不安や感染リスクが問題になり、受け入れに難渋しているのが実情である。さらに治療以外にも家族対応および就業面など社会的な対応も迫られることも多い。これらの実情のもと、数多くの医療スタッフによるチーム医療が必要な領域であること

を踏まえ、当院では数年前より HIV 診療チームを立ち上げ活動しつつある。さらに在宅介護職員に対して、具体的な研修を行い、HIV 感染症に関する啓蒙とともに HIV 患者の在宅医療の推進にも繋げて行くことを目的とした、極めて意義深い研究活動と考えている。

また、アンケート調査等を通じ地方の HIV 診療に関する連携の実態を把握し問題点を検討する。

B. 研究方法

HIV 患者の介護に直接当たってもらうことが差し迫った事情であることを踏まえ、県内の在宅介護職の看護師に各々1～3日間ずつ研修会として、当院の HIV 患者の実地研修（外来、病棟）と講義・討議を年に数回行った。

（倫理面への配慮）

患者および関係者に対する人権の保護に配慮して行い、調査に協力できない場合も不利益にならないようにする。

C. 研究結果

愛媛県内の在宅介護職の看護師 2 名に令和 6 年 1 月 22 日に当院の HIV 患者の実地研修（外来、病棟）と講義・討議を 1 回実施した（3 回計画したが新型コロナウイルス蔓延の影響にて 1 回のみ実施）（図 1）。

愛媛県では、32 名のみ研修を行ったが、アンケートを行ったところ研修の全体的には満足度は高かった。

また、愛媛県では研修前は受け入れに不安であったが、研修後は 2 人とも受け入れ可能とのアンケート結果であった。さらに「他の患者と変わらない状態であることが認識でき、さらにどのように HIV 感染患者とかかわっているのかが判ってよ

かった。具体的な薬や検査について理解できた。」などの意見があった。

令和5年度 HIV/AIDS診療研修生スケジュール			
研修期間:令和6年1月22日			
日時	時間	場所	担当
8:45	15分	地域医療支援センター3階 スキルス・ラボ(3)	オリエンテーション・看護師挨拶
9:00	45分	地域医療支援センター3階 スキルス・ラボ(3)	医師講義:基礎知識(ウイルス、症状、治療、検査、U=U、薬害、血友病、歴史等)
9:45	45分	地域医療支援センター3階 スキルス・ラボ(3)	薬剤について
10:30	60分	内科外来	外来見学・患者面談
11:30	30分	地域医療支援センター3階 スキルス・ラボ(3)	看護師講義:感染症ケア(病棟看護)、感染対策(標準予防策、暴露時対応等)
12:00	30分	地域医療支援センター3階 スキルス・ラボ(3)	看護師講義:感染症ケア(在宅療養支援)
12:30	60分	地域医療支援センター3階 スキルス・ラボ(3)	昼休憩
13:30	30分	地域医療支援センター3階 スキルス・ラボ(3)	看護師講義:感染症ケア(外来看護)
14:00	30分	地域医療支援センター3階 スキルス・ラボ(3)	検査相談
14:30	30分	地域医療支援センター3階 スキルス・ラボ(3)	歯科診療・口腔ケア
15:00	30分	地域医療支援センター3階 スキルス・ラボ(3)	心理士講義:セクシュアリティ
15:30	30分	地域医療支援センター3階 スキルス・ラボ(3)	MSW講義:制度、地域連携等
16:00	60分	1-7病棟 ICU/ICU/ICU	HIVカンファレンス 研修の振り返り
17:00		地域医療支援センター3階 スキルス・ラボ(3)	アンケート記入

図 1 在宅介護研修スケジュール

さらに講義、カンファレンスも含め全体的な意見として、「多職種の意見も含めて全体像が見られた。各職種が意見を持ちあい、方向づける関係が素晴らしいと思った。チームの関係性が良く話し合いやすい雰囲気であった。今後の介護の役に立つことを強く感じた。」という前向きな意見が得られ HIV の介護・在宅医療の充実がさらに図れた。

これからも実践的な研修を継続することは、大変意義深いと考えられた。

また、高知県では今年度も訪問看護師 2 施設 5 名の実施研修を行った（その後 1 施

設で HIV 患者を実際に受け入れ得た)。

D. 考察

HIV 患者の介護に直接当たってもらうことが差し迫った事情であることを踏まえ、在宅介護職の看護師に愛媛県も高知県も各々1 日間は研修会として、中核拠点病院の HIV 患者の实地研修（外来、病棟）と講義・討議を行うことができた。具体的な研修により、HIV 感染症に関する啓蒙とともに HIV 患者の在宅医療への推進にも繋がり、極めて意義深い研究活動と考えている。アンケートの結果、かなり前向きで好意的な意見も多く見受けられ、HIV 感染症に対する偏見や誤解が解け、さらに最新の知識が得られる良い機会と考えられた。さらに近々具体的な患者の在宅医療への受け入れが円滑に進むことを期待している。

E. 結論

在宅介護職の看護師に対し、实地研修を実施した。HIV 患者の介護に直接当たってもらうことが差し迫った事情であることを踏まえ、愛媛県および高知県内の在宅介護職の看護師に各々 HIV 患者の实地研修（外来、病棟）と講義・討議を行った。具体的な研修により、HIV 感染症に関する啓蒙とともに HIV 患者の在宅医療への推進にも繋がり、極めて意義深い研究活動と考えている。

F. 健康危険情報

該当なし

G. 研究発表

1. 論文発表

- 1) Otani,M., Shiino,T., Hachiya,A., Gatanaga,H., Watanabe,D.,

Takada,K.,et.al. Association of demographics, HCV co-infection, HIV-1 subtypes and genetic clustering with late HIV diagnosis: a retrospective analysis from the Japanese Drug Resistance HIV-1 Surveillance Network. J. International AIDS Society2023,26 :e26086.

- 2) Taniguchi Y, Suemori K, Tanaka K, Okamoto A, Murakami A, Miyamoto H, Takasuka Y, Yamashita M, Takenaka K : Long-term transition of antibody titers in healthcare workers following the first to fourth doses of mRNA COVID-19 vaccine: Comparison of two automated SARS-CoV-2 immunoassays. J Infect Chemother.29(5):534-538,2023.

- 3) 中村美保、岡崎雅史、西田拓洋、高橋武史、朝霧 正、宮崎詩織、武内あかり、高田清式、武内世生． HIV 陽性者のワクチン接種状況調査．日本エイズ学会誌 25 : 99-105、2023.

- 4) 中村美保、前田英武、岡崎雅史、西田拓洋、朝霧 正、四國友里、北村優衣、高田清式、武内世生．高知県内医療機関における HIV 陽性者受け入れ時の問題点と解決への取り組み．日本エイズ学会誌 25 : 106-111、2023.

2. 学会発表

- 1) 菊地 正、西澤雅子、小島潮子、大谷眞智子、Lucky Runtwene、椎野禎一郎、高田清式、吉村和久、杉浦 互他．2022 年の国内新規診断未治療 HIV 感染者・AIDS 患者における薬剤耐性 HIV 1 の動向．日本エイズ学会、2023 年、京都.
- 2) 木原久文、中尾 綾、臼井麻子、西田拓

洋、徳井恵美、海面 敬、赤松祐美、谷 英俊、池谷千恵、中村美保、川田通子、武内世生、佐藤 譲、今滝 修、尾崎修治、和田秀穂、千酌浩樹、川邊憲太郎、山之内純、高田清式。中国四国地方における HIV 関連神経認知障害に関する研究・続報。日本エイズ学会、2023 年、京都。

3) 中尾 綾、レイシー清美、若松 綾、末盛浩一郎、河邊憲太郎、山之内純、竹中克斗、高田清式。HIV 感染者の気分状態と睡眠に関する検討 第 2 報。日本エイズ学会、2023 年、京都。

4) 西田拓洋、中尾 綾、臼井麻子、海面敬、徳井恵美、赤松祐美、谷 英俊、池谷知恵、中村美保、川田通子、武内世生、佐藤 穰、尾崎修治、今滝 修、和田秀穂、千酌浩樹、河邊憲太郎、山之内純、高田清式。HIV 診療における CoCoBattery の活用。日本エイズ学会、2023 年、京都。

5) 加藤潤一、越智俊元、末盛浩一郎、乗松真大、小西達矢、名部彰悟、丸田雅樹、山之内純、高田清式、竹中克斗。ART 導入後に化学療法を併用し寛解維持している HIV 関連リンパ増殖性疾患。日本エイズ学会、2023 年、京都。

H. 知的財産権の登録状況（予定を含む）

該当なし